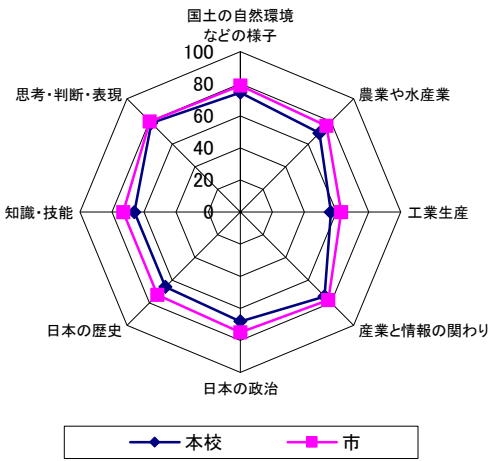


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.5	78.9	75.4
	農業や水産業	69.7	76.1	71.2
	工業生産	56.4	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	74.4	77.6	59.7
	日本の政治	68.2	75.0	79.3
	日本の歴史	66.1	73.1	72.8
観点別	知識・技能	66.1	73.0	71.4
	思考・判断・表現	78.4	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●校内正答率は74.5%で、市の正答率を4.4ポイント下回った。 ●日本の地形の名称や位置を選択する問題の校内正答率は42.0%で、市の正答率を7.7ポイント下回った。 ○日本の周辺の海洋名を選択する問いの校内正答率は87.5%で、市の正答率を0.2ポイント上回った。	日本の国土の位置や地形の名称や位置については、授業で積極的に地図帳や白地図を活用して知識の定着を図っていききたい。 普段の授業では、教科書の「ことば」で取り上げられている重要な用語の意味を丁寧に確認し、社会的な事象に関する理解を深めていききたい。
農業や水産業	●校内正答率は69.7%で、市の正答率を6.7ポイント下回った。 ●都道府県の位置や米の生産量を地図に記入する問いの校内正答率は42.0%で、市の正答率を19.7ポイントも下回った。 ○複数の資料に着目して魚の流通にかかる費用について読み取る問題の校内正答率は84.1%で、市の正答率を0.9ポイント上回った。	都道府県の位置を地図で確認し、正しく理解させるために何度も繰り返し白地図に記入させたりテストを行ったりして定着を図っていききたい。 魚の流通にかかる費用の問題や日本の農業人口をめぐる問題の資料の読み取りはよくできていたので、今後もグラフの読み取りや複数の資料を結び付けて推測する資料活用を、算数など他教科との関連を図りながら定着させていききたい。
工業生産	●校内正答率は56.4%で6.5ポイント下回った。 ●大工場と中小工場の比較をした帯グラフの読み取りの問題では、42.0%で、市の正答率を10.8ポイント下回った。	自動車工場の作業工程についての理解が低かったので、授業では写真や絵の資料を読み取る時に着眼点を意識させて資料の見方や考え方を広めていく。 大工場と中小工場の役割や特徴を正しく理解しグラフが何を表しているか比較してまとめる活動を通して理解を深めていく必要がある。
産業と情報の関わり	●校内正答率は74.4%で市の正答率を3.2ポイント下回った。 ●「人工林」を答える問いに対して、校内正答率は6.2%で市の正答率を7.7ポイント下回った。 ○ポイントカードを利用するメリットを記述する問いの校内正答率は67.0%で、市の正答率を0.8ポイント上回った。 ○津波から生活を守る取組の問題の校内正答率は96.6%で、非常に高かった。	情報産業の発展への関心を高めるため、情報産業と国民生活との関わりについて、再度授業で取り上げ、復習する必要がある。国民生活において、情報産業が果たす役割が大切なことや情報を有効に活用することが大切なことをもう一度確認し、理解を深めていく。 毎時間の授業で資料から分かることに着目させ、根拠を明確にして気付いたことや考えたことを記述する活動を行って思考力や表現力の習熟を図っていききたい。
日本の政治	●校内正答率は68.2%で市の正答率を6.8ポイント下回った。 ●国会の仕組みについての問いに対して、校内正答率は55.7%で市の正答率を15.5ポイントも下回った。 ○非核三原則について正しい記述を選ぶ問題の校内正答率は80.7%で市の正答率を0.8ポイント上回った。	今年度は、子育て支援について宇都宮市の政策や児童が利用できる施設などを調べる活動を行い、政治の働きを身近に感じることができるよう支援した。 自分たちの生活とかけはなれがちな政治の働きについて身近で切実なものにするために、学校や学級のルールについて考える場を設定したり、市の働きを取り上げたりするなどして政治と関連付けて考え、政治の働きに関心がもてるよう今後も指導を継続していく。
日本の歴史	●校内正答率は66.1%で市の正答率を7.0ポイント下回った。 ●武家諸法度に定められたこととして参勤交代の説明を結び付けて選ぶ問いに対して、校内正答率は35.2%と低く、市の正答率を19.2ポイントも下回った。 ○江戸時代の主な大名の配置について資料を読み取る問題の校内正答率は78.4%で、市の正答率を2.8ポイント上回った。	歴史の学習において基本的な知識を定着させるために、歴史的な事象を絵や地図などの資料と言葉を関連付けさせて理解させていききたい。資料から大切な情報を読み取る時、どこに視点を置いて見るのかを支援していく。そのために、歴史的な事象を羅列する学習ではなく、授業の中で、統計グラフや地図、当時の絵や写真などの資料を多く取り扱い、その資料から何が読み取れるのかを発表し合うような場を設定し、資料を読み取る力や読み取ったことを表現する力を身に付けていくようする。